



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 地域創造レター

9月号—No.293

2019.8.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【乙女色(おとめいろ)】花びらが何枚も重なって咲く乙女椿のような薄い紅色。

江戸時代に薄紅色の一般名として用いられた錆色の別名。椿は、花形、花色が多彩で、江戸時代には各地の神社、寺院、武家屋敷などの庭園で栽培され、人々に愛されるようになった。乙女椿は千重咲きを代表する小ぶりの花で、乙女色はその花のように春の訪れを告げる優しい色として親しまれている。

## ●目次 / contents

今月のニュース..... 2

地域創造フェスティバル2019報告

財団からのお知らせ..... 4

2019年度「地域の公立文化施設実態調査」協力のお願い / 全国市町村国際文化研修所(JIAM)「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」募集開始 / 令和元(2019)年・2(2020)年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」長野セッションセミナー報告

今月の情報..... 5

地域通信 / 特集 アートプロジェクト / アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

福島県喜多方市 「2019喜多方発21世紀シアター」

発行元：一般財団法人地域創造  
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11  
オリックス赤坂2丁目ビル9F  
Tel. 03-5573-4183 Fax. 03-5573-4060  
URL: <http://www.jafra.or.jp/>

# 地域創造設立25周年記念シンポジウムなどを開催

## 地域創造フェスティバル2019 報告

2019年7月30日、31日

写真左：シンポジウム「2021年以降の地域社会とこれからの公立文化施設～少子高齢化、福祉と向き合う劇場・ホールの事例から」  
右：ダン活プレゼンテーション(マニシアさん)

### ●地域創造フェスティバル

地域創造の事業紹介を目的に年1回開催しているフェスティバル。音楽、ダンスのアーティストによる多彩な実演(プレゼンテーション)、シンポジウム、セミナーなどを実施するとともに、財団事業の説明会を開催。アーティスト、全国のホール関係者、専門家が一堂に集い、交流する貴重なプラットフォームとなっている。会期中に都道府県・政令指定都市文化行政担当課長会議を同時開催。

#### \*1 菅原直樹

1983年生まれ。俳優、介護福祉士。介護と演劇の相性のよさを実感し、「老いと演劇」をテーマにOiBokkeShiを立ち上げてワークショップをスタート。ワークショップで出会った88歳の岡田忠雄さんを主役にした第1回公演の認知症徘徊演劇『よみちにひはくれない』を2015年に発表。以来、「介護現場に演劇の知恵を、演劇の稽古場に介護の深みを」をコンセプトに掲げ、認知症ケアに演劇的手法を活用する「老いと演劇のワークショップ」を全国各地で展開。

#### \*2 セレノグラフィカ(隅地菜歩+阿比留修一)

1997年結成。ダンサー、コレオグラファー。関西を拠点に活動。2007年から公共ホールダンス活性化事業登録アーティスト・登録支援アーティストとして全国で活躍。ワークショップ、子どもから高齢者まで市民とつくるダンスに定評があり、これまで450を超える教育機関へのアウトリーチを行う。

\*3 レインボードロップス・ダンスプロジェクト  
北九州障害者芸術祭と北九州芸術劇場のコラボレーションにより2014年に誕生したダンスプロジェクト。以来、アーティスト(セレノグラフィカ)、北九州市身体障害者福祉協会アートセンター、北九州芸術劇場の協働で「障害のあるなしにかかわらずダンスを楽しむ場をつくるプロジェクト」として実施、アシスタントに地元ダンサー(今村貴子)も参加する。2019年度は約30名が10数回のワークショップを経て、北九州芸術劇場小劇場で単独公演を行う。



多くのアーティストと公立ホールの交流の場となっている地域創造フェスティバルを7月30日、31日に東京芸術劇場で開催しました。今年、地域創造が設立25周年を迎えたことを記念したシンポジウムやおんかつセミナーに加え、61組のアーティストによる意欲的なプレゼンテーションが行われるなど、大盛況でした。開催にご協力いただきました関係者の皆様、全国からご来場くださいました公立ホールや自治体の皆様には、心より御礼申し上げます。

### ●シンポジウムのテーマは“2021年以降”

「2021年以降の地域社会とこれからの公立文化施設～少子高齢化、福祉と向き合う劇場・ホールの事例から」をテーマに、まずニッセイ基礎研究所研究理事の吉本光宏さんが「東京2020大会に惑わされないために」と題してスピーチ。“オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである”というオリンピック憲章を紹介し、「東京2020大会のためではなく、地域と未来のための文化プログラムにする必要がある。1964大会は戦後へのマインドセットのきっかけになったが、2020大会をこれからの多様性のある共生社会に向けた生き方を創造する契機としてとらえ、文化プログラムを考えたい」と強調されていました。

そうした参考事例として紹介されたのが、三重県文化会館がOiBokkeShi主宰の菅原直樹さん(\*1)と共に取り組んでいる「介護を楽しむ」「明るく老いる」アートプロジェクトと、北九州芸術劇場がセレノグラフィカ(\*2)と共に

障がいのある人などを対象に取り組んでいる「レインボードロップス・ダンスプロジェクト」(\*3)です。

三重県文化会館副館長兼事業課長の松浦茂之さんは、「これまでFor Artのプログラムを中心に考えていたが、By Artが求められるようになった。しかし、By Artで社会課題を解決するというのはおこがましい。解決は難しくても、真剣に向き合うことが大切だと会館では話し合っている。県立施設として先進的な取り組みを真剣にやろうと考えた。福祉の専門領域に入ること、高齢者と演劇をつくることに不安はあったが、社会に何らかの変化を起こしていくプロジェクトなので10年は続けたい。菅原さんによる介護と演劇のワークショップを県内各所で実施しているが、介護学校で学ぶ東南アジアの留学生や家族会の人の意識が変わるところを目の当たりにした。介護関係者と演劇をやっている人が一緒に芝居をつくるプロジェクト『老いのプレーパーク』もスタートし、そこから菅原さんのようなファシリテーターが育ってくれればと思っている」と思いを話していました。

また、レインボードロップスについて、セレノグラフィカの隅地菜歩さんは、参加者自身の感想を交えて次のように話していました。「“踊るの大好き”という言葉が、身体感覚に根ざしていることにまず衝撃を受けた。付き添いのお母さんたちがやがて一緒に踊り始めたのは、雑多な情報に左右されていない障がい者の身体の側にいて、殻を脱いでみようという作用が起きていたのではないかと。障がい者と向き合う

## ▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

ことで、常にダンスを問い直させてもらっている。こちらが予め決めた地図を持ち込まず、その場で起こることを大切にしたい」。

ディスカッションでは、「高齢者のストーリーを読み解いて役割を与えるというクリエイティブさが介護の仕事にはある。施設や職員によって介護についての考え方は異なるが、より良い介護とは何かを考える機会になれば」(菅原)、「一緒にダンスを楽しんでくれる北九州市身体障害者福祉協会アートセンターのような協力者がいないと長期的取り組みは難しい」(北九州芸術劇場・龍亜希プロデューサー)といった現場の声も聞かれ、高齢者や障がい者にどう向き合うかのヒントと課題をたくさんもらったシンポジウムとなりました。

### ●おんかつセミナーと多彩なプレゼンテーション

まず、公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)では、フェスティバルと同時開催で研修を受けている2020年度ダン活実施団体や公立ホール職員に向けて、2020・21年度登録アーティスト8組による多彩なプレゼンテーションが行われました。再登録されたアーティストに加え、初登録組が持ち味を活かしたワークショップの体験とパフォーマンスを披露。「ダンスが出来ていくプロセスを体験してほしかった」という中村蓉さんは、参加者に写真のポーズを真似させるところからスタートし、言葉の巧みなリードで最後は歌謡曲に合わせて楽しくダンス。障がいのある人などを含む多世代の人とコラボレーションをしている初登録のマニシアさんは車いすを使ったワークショップ体験をプレゼン。また、同じく初登録の白井剛さんと康本雅子さんは、第一線のアーティストらしく、一挙手一投足の動きで独特の身体性を強く印象づけ、参加者を惹きつけていました。

公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)では、おんかつセミナーのなかで、エスパスホール(岡山県真庭市)、りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館、サントミュージゼ上田市交流文化芸術センターの担当者によるアウトリーチを基

軸とした独自の取り組みの紹介が行われたほか、支援登録アーティスト53組が工夫を凝らしたプレゼンテーションを展開しました。ピアニストの田村緑さんは、寝転がって聴く、ズギを踊りながら聴くなど、いろいろな聴き方を提案するパフォーマンスを披露。クラシックギターとハーブの組み合わせに挑戦した松尾俊介さんと福島青衣子さんと「いろいろな味を体験すると味覚が育つように、アウトリーチでは音楽のいろいろな側面を体験してほしい。音楽は人間の深い部分の感性を表現することができる。音楽を通じてこういう世界もあるという体験をしてほしい」と語りかけたバイオリニストの坂口昌優さん、音が出る物や声を使って誰でも演奏に参加できるサウンド・ペインティング(指揮者が出す簡単なサインに従って行う即興演奏)を披露したサクソフォンの大石将紀さんなど、工夫されたパフォーマンスが続きました。



おんかつ支援プレゼンテーション(上:田村緑さん(ピアノ)/下:松尾俊介さん(クラシックギター)と福島青衣子さん(ハーブ))



おんかつセミナー「普及事業としてのアウトリーチ～継続から普及へ 持続可能な事業づくり～」

### 地域創造フェスティバル2019 プログラム概要

#### 1日目(7月30日)

- シンポジウム「2021年以降の地域社会とこれからの公立文化施設—少子高齢化、福祉と向き合う劇場・ホールの事例から」  
【モデレーター】吉本光宏  
【パネリスト】菅原直樹、セレノグラフィカ(隅地茉歩+阿比留修一)、松浦茂之、龍亜希
- ダン活プレゼンテーション  
【アーティスト】長井江里奈、北尾巨、マニシア、中村蓉、白井剛、藤田善宏、康本雅子、田村一行
- おんかつ支援プレゼンテーション  
【ピアノ】新崎誠実、岩崎洵奈、酒井有彩、田村緑、中川賢一 【弦楽器】磯絵里子、北島佳奈、早稲田桜子(ヴァイオリン)/奥田なな子、加藤文枝(チェロ) 【管楽器】田中拓也(サクソフォン)/加藤直明(トロンボーン) 【声楽】菅家奈津子(メゾ・ソプラノ)/糸賀修平(テノール)/吉川健一(バリトン) 【打楽器】大熊理津子、宮本安子(マリンバ)/野尻小矢佳(パーカッション&ボイス) 【その他】松尾俊介(クラシック・ギター)/福島青衣子(ハーブ) 【アンサンブル】デュエットうかなえ&ゆかり、ピアノデュオ・ドウオール(ピアノデュオ)/デュオ・レゾネ(クラリネット&ピアノ)/ピアノトリオ・ミュゼ/Quartet SPIRITUS(サクソフォン四重奏)/BLACK BOTTOM BRASS BAND

#### 2日目(7月31日)

- おんかつセミナー「普及事業としてのアウトリーチ～継続から普及へ 持続可能な事業づくり～」  
【モデレーター】小澤櫻作 【パネリスト】井尾祥子、中尾友彰、田澤拓朗  
【コメンテーター】児玉真、丹羽徹
- 地域創造助成要綱説明会/公立美術館活性化事業説明会/リージョナルシアター事業説明会
- おんかつ支援プレゼンテーション  
【ピアノ】新居由佳梨、久保田葉子、今野尚美、佐々木京子、白石光隆、中野翔太 【弦楽器】大森潤子、坂口昌優、高橋和歌(ヴァイオリン)/海野幹雄(チェロ) 【管楽器】森岡有裕子、吉岡次郎(フルート)/大石将紀、田村真寛(サクソフォン)/高見信行(トランペット)/喜名雅(チューバ) 【声楽】大森智子、廣田美穂(ソプラノ)/ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン) 【打楽器】塚越慎子、浜まゆみ(マリンバ) 【その他】山本奈央(オカリナ) 【アンサンブル】泉真由×松田弦(フルート&クラシック・ギター)/Dual KOTO×KOTO(箏デュオ)/アーバンサクソフォンカルテット、Quatuor B(サクソフォン四重奏)/Buzz Five(金管五重奏)

## ▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

## 財団からのお知らせ

●「地域の公立文化施設実態調査」に関する問い合わせ  
芸術環境部 青井・三田・児島  
Tel. 03-5573-4093

●「市町村長特別セミナー」プログラム  
●地域自立応援施策の動向(総務省地域力創造グループ地域自立応援課)  
●「地方創生」をめぐる最近の動向(内閣府地方創生推進室次長 牛島授公)  
●地域文化・スポーツ振興によるまちづくりへの挑戦(前長野県上田市市長 母袋創一)  
●ミニコンサート(北島佳奈(ヴァイオリン)、湯川美佳(ピアノ))  
●自治体におけるAI・RPAの導入の必要性(早稲田大学政治経済学術院教授 稲継裕昭)  
●日本の伝統を次世代につなぐ経営戦略(株式会社和える代表取締役 矢島里佳)  
○主催・問い合わせ  
(公財)全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM)教務部  
Tel. 077-578-5932

●「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」に関する問い合わせ  
芸術環境部 渡辺  
Tel. 03-5573-4185

### ●2019年度「地域の公立文化施設実態調査」協力をお願い

当財団では地方公共団体等が設置した文化施設の運営状況等を把握することを目的に、5年ごとに地方公共団体、公立文化施設を対象とした調査を実施しています。

前回2014年の調査以降、「文化芸術基本法」や「障害者の文化芸術活動の推進に関する法律」の成立など、地域の文化政策や公立文化施設を取り巻く環境が大きく変化しているに伴い、運営のあり方も変化していると思われます。

調査結果は、当財団の今後の事業実施や関係諸機関への情報共有等に有効に活用させていただくとともに、各地方公共団体・公立文化施設の文化・芸術を通じた地域づくりに役立てていただけるように財団ウェブサイト等でご報告します。

8月下旬より各都道府県、市町村を通じて調査票を順次送付します。本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようよろしくお願い申し上げます。

### ●全国市町村国際文化研修所(JIAM)「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」の募集開始

全国の市町村長・副市町村長および部長級職員を対象に、全国市町村国際文化研修所(JIAM)との共催により「市町村長特別セミナー『地域経営塾』」を実施します。上田サントミュージアの開館に携わった母袋創一前上田市市長から芸術文化を活かした地域づくりについて講演いただくとともに、おんかつアーティストによるミニコンサートで音楽のアウトリーチを体感していただくことができます。

研修の詳細および参加方法は、JIAMホームページ(<https://www.jiam.jp>)をご確認ください。

#### 【研修日程】

10月31日(木)、11月1日(金)

#### 【会場】

全国市町村国際文化研修所(JIAM)

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎2-13-1

#### 【申込締切】

9月12日(木)

### ●令和元(2019)・2(2020)年度「公共ホール音楽活性化アウトリーチフォーラム事業」長野セッション セミナー報告

本事業は、都道府県と連携し、地域での演奏活動を通じて創造性豊かな地域づくりに資することを目的としており、令和元(2019)・2(2020)年度は長野県で実施しています。今年度は、「なぜ今アウトリーチか～子どもが輝くアートのちから～」と題したセミナーを、7月24日に松本市内のキッセイ文化ホールで開催しました。県内7市町村の担当者を含む約20名が参加し、アウトリーチの実際と可能性についての理解を深めました。

冒頭では、平成29(2017)・30(2018)年度の鹿児島セッションでコーディネーターを務めた演出家の田上豊さんによる、演劇の手法を取り入れたワークショップが行われ、体を動かしながらアウトリーチプログラムづくりの基礎を学びました。

また、鹿児島セッションに派遣されたトリオ・リラ(ピアノトリオ)による、アウトリーチの実演も行われ、参加者からは「アウトリーチの現場の様子がよくわかった」と好評を得ました。

実演後のトークセッションでは、「子どもたち全員が音楽を楽しめるアウトリーチプログラムを考

えた。ただ演奏するだけでなく、子どもたちに参加してもらう方法を模索した」と、効果的なアウトリーチを実現するため、時間を掛けてプログラムをつくり上げた様子が語られました。

今年度は、8月から11月にかけて、市町村公演の実施自治体の募集および派遣アーティストの募集を行います。また、来年度は、6日間にわたる派遣アーティストの研修を経たのち、秋から冬にかけて県内市町村で小学校などへのアウトリーチやコンサートを行う予定です。



トリオ・リラによるアウトリーチ実演の様子

## ▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

## 地域通信

### ● データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

### ● 地域ブロック

[北海道・東北] 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島  
[関東] 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川  
[北陸・中部] 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知  
[近畿] 三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山  
[中国・四国] 鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知  
[九州・沖縄] 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

### ● 情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。  
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4183  
letter@jafra.or.jp  
地域創造情報担当 児島・三田

● 2019年11月号情報締切  
9月27日(金)

● 2019年11月号掲載対象情報  
2019年11月～20年2月に開催もしくは募集されるもの

### 地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」 掲載情報募集中

当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。

- 公共ホール等の求人情報
- 公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報

掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。 <http://www.jafra.or.jp/>

### 北海道・東北

#### ● 札幌市

札幌市芸術文化財団  
〒060-0001 札幌市中央区北1条西13丁目  
Tel. 011-271-5822 川島花海  
<https://www.kyobun.org/>

#### 教文伝統芸能シリーズ 「能楽なう」

次世代への継承を目的に日本の伝統芸能を紹介する「教文伝統芸能シリーズ」の能公演。同じ演目でも台詞や型など流派ごとに細かな違いがあるシテ方の中でも、古来の型を残す金春流と華麗優美さをもつ金剛流の2つの流派を取り上げる。公演当日はプレレクチャーや能面の展示なども予定。

[日程] 9月4日  
[会場] 札幌市教育文化会館

#### ● 北海道旭川市

北海道立旭川美術館  
〒070-0044 旭川市常磐公園内  
Tel. 0166-25-2577 門間仁史  
<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/abj/top.htm>

#### ブリティッシュ・オートマタ ポール・スプナーと英国現代 からくり人形の世界

機械部品の組み合わせが実現する複雑な動作と、美術品に匹敵する豊かな造形により、多くの愛好家を魅了するイギリスの現代オートマタ(機械仕掛け)のからくりで動く人形を、世界中にファンをもつポール・スプナーを中心に約80点を展示。そのほとんどが実際に動かすこ



ポール・スプナー&マット・スミス《モンマルトルのアヌビス》(1989年)  
©Paul Spooner ©Matt Smith

とができ、デザインスケッチや機構模型も併せて展示することで視覚的・触覚的にオートマタの世界を楽しめる。

[日程] 7月6日～9月1日  
[会場] 北海道立旭川美術館

#### ● 秋田県秋田市ほか

秋田県観光文化スポーツ部 文化振興課  
〒010-8572 秋田市山王3-1-1  
Tel. 018-860-1529 佐藤・宇佐美  
<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/42973>

#### 仙台フィルハーモニー管弦楽団 「大いなる秋田」公演

合唱とプラスのための楽曲『大いなる秋田』は、1968年に明治百年を記念する秋田県事業のひとつとして誕生し、初演以来県内外の各種行事で演奏され、広く県民に親しまれてきた。今回は萩森英明編曲による管弦楽版が仙台フィルハーモニー管弦楽団により演奏される。秋田市、由利本荘市、湯沢市、鹿角市の県内4カ所が会場となり、各地で結成された合唱団もステージに登壇する。

[日程・会場] 9月20日:アトリオン音楽ホール、9月21日:由利本荘市文化交流館カダーレ、9月22日:湯沢文化会館、9月23日:鹿角市文化の杜交流館コモッセ

#### ● 山形県酒田市

土門拳記念館  
〒998-0055 酒田市飯森山2-13 (飯森山公園内)  
Tel. 0234-31-0028 池田佳奈  
<http://www.domonken-kinenkan.jp/>  
生誕110年 土門拳 鬼が撮った日本

戦後写真界をリードした土門拳の生誕110年の節目に、ライフワークであった「古寺巡礼」、長期構想の末に完成させた「風貌」といった代表作や、ヌードを含む組写真など、独特の視

点で切り取った写真作品を一挙に展示し、その生涯をたどる。当時使っていたカメラや骨董品コレクション、絵と書なども展示され、「写真の鬼」と称される土門の生きた姿を感じることができる。

[日程] 7月19日～9月23日  
[会場] 土門拳記念館

### 関東

#### ● 茨城県水戸市

水戸市芸術振興財団  
〒310-0063 水戸市五軒町1-6-8  
Tel. 029-227-8111 鴻巣俊博  
<http://www.arttowermito.or.jp/>

#### 茨城の名手・名歌手たち 第29回演奏会

茨城県ゆかりの優れた音楽家を広く紹介し、さらなる活躍を奨励することを目的に開館以来毎年行っている企画。5月6日に行われたオーディションの合格者9名が集結し、コンサートを開催する。今回から初の試みとして、アフターイベントも開催。宮本文昭の司会とともに合格者たちの生の声が聞けるほか、本公演では聴くことのできなかったコラボ演奏も予定している。合格者は今後プロムナードコンサートなどの主催公演に出演。

[日程] 9月8日  
[会場] 水戸芸術館コンサートホールATM

#### ● 群馬県前橋市

アーツ前橋  
〒371-0022 前橋市千代田町5-1-16  
Tel. 027-230-1144 沼下桂子  
<http://artsmaebashi.jp/>

#### 山本高之とアーツ前橋のビヨンド20XX展 未来を考えるための教室

小学校教諭としての経験から「教育」を制作テーマのひとつとしているアーティスト・山本高之

とアーツ前橋の学芸員が、美術を通じた学びとは何かを議論し、これからの“美術/美術館の役割”を問い直す。会場には、山本が前橋市内在住の子どもたちと行ったワークショップを通じて制作された新作《ビヨンド2020 道徳と芸術》も展示される。

[日程] 7月19日～9月16日

[会場] アーツ前橋

#### ● 千葉市

千葉県立美術館

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1

Tel. 043-242-8311 古屋梨奈

<http://www.chiba-muse.or.jp/ART/>

#### 千葉の新進作家vol.1

##### 志村信裕—残照—

千葉県ゆかりの新進気鋭の作家を紹介し、現代の美術に親しむ展覧会シリーズ。初回となる今回は、県在住の美術家・志村信裕の個展を開催。志村は、日用品や動物など、子どもから大人まで誰にでも親しみやすいものをモチーフに、自らの視点で“過去”を探る映像作品を制作している。本展では“羊”をめぐってフランス・バスク地方と千葉県成田市に取材した新作《Nostalgia, Amnesia》をはじめ、初期の映像を使ったインスタレーション作品から制作手法が変化した近年の作品までを一挙に展示。

[日程] 7月13日～9月23日

[会場] 千葉県立美術館

#### ● 相模原市

相模女子大学グリーンホール

(相模原市民文化財団)

〒252-0303 相模原市南区相模大野4-4-1

Tel. 042-749-2200 木下京子

<http://hall-net.or.jp/01greenhall/>

#### 相模原音楽家連盟コンサート No.19「サン=サーンスの生涯」

相模原市にゆかりのある音楽家

から成る相模原音楽家連盟によるクラシック初心者でも気軽に楽しめるコンサート。1人の作曲家に焦点を当てた「作曲家の生涯」シリーズとして、組曲《動物の謝肉祭》をはじめとした、サン=サーンスのプログラムを演奏する。ダ・ヴィンチのように多才で、天文学などあらゆる分野に精通したサン=サーンスのさまざまなエピソードも楽しむことができる。

[日程] 9月16日

[会場] 相模女子大学グリーンホール 多目的ホール

#### 北陸・中部

#### ● 新潟県見附市

ギャラリーみつけ

〒954-0059 見附市昭和町2-4-1

Tel. 0258-84-7755 小沼智恵利

<https://www.gallery-mitsuke.com/>

#### 没後30年 平澤熊一・若井宣雄展

戦前から戦後にかけて長岡や見附で作品を発表した画家たちの作品を展示し、激動の時代を生き抜いた軌跡を追う。地元ゆかりの作家として評価が高い若井宣雄と、5年前に見附市で大きな絵が発見され、池袋モンパルナス関連の作家として注目される平澤熊一。友人同士でもあった二人の青春期の作品から戦中戦後の新潟県内を題材とした作品を中心に構成し、見附市所蔵作品も併せて公開する。

[日程] 9月7日～29日

[会場] ギャラリーみつけ(みつけ市民ギャラリー)

#### ● 富山県富山市

富山県美術館

〒930-0806 富山市木場町3-20

Tel. 076-431-2711 八木宏昌

<https://tad-toyama.jp/>

#### 日本の美 美術×デザイン —琳派、浮世絵版画から現代へ—

アートとデザインと人々をつなぐ場として新しい見せ方に取り組み同美術館による企画展。美しい自然を形象化して生み出された、日本美術の豊かな装飾性に着目し、やまと絵の伝統を基盤に斬新な表現と構図により発展した「琳派」や、日本のグラフィックデザインのルーツともいえる「浮世絵版画」、現代デザインに至るまで、デザインの切り口で紹介する。

[日程] 8月10日～10月20日

[会場] 富山県美術館

#### ● 石川県金沢市

金沢21世紀美術館

〒920-8509 金沢市広坂1-2-1

Tel. 076-220-2800 石川聡子

<https://www.kanazawa21.jp/>

#### 開館15周年記念 現在地：未来の地図を描くために [1]

開館15周年を迎え、約3,880件に上るコレクション作品を改めて見直す試みとして企画された展覧会。多様化、複雑化する現代において自分たちの現在地がどこにあるのかを見据え、未来に向けてどのような地図が描けるのかを考える。10月12日から来年4月12日まで「現在地：未来の地図を描くために [2]」が開催される予定。

[日程] 9月14日～12月19日

[会場] 金沢21世紀美術館



エルネスト・ネト《身体・宇宙船・精神》2004  
photo: FUKUNAGA Kazuo  
© Ernesto NETO

#### ● 岐阜県岐阜市

サラマンカホール

〒500-8384 岐阜市藪田南5-

14-53

Tel. 058-277-1113 竹内香織

<https://salamanca.gifu-fureai.jp/>

#### ぎふ未来音楽展2019 ガラ・コンサート&シンポジウム

これからの社会と音楽の関わりについて深掘りする、未来志向のガラ・コンサート&シンポジウム。ガラ・コンサートでは、一柳慧の文化勲章受章、三輪眞弘の佐治敬三賞受賞を記念して、一柳のピアノ演奏や兩名作曲の楽曲の演奏が行われる。コンサートの後は、「劇場音楽の未来を考える」をテーマに、兩名を交えてシンポジウムが開催される。

[日程] 9月14日

[会場] サラマンカホール

#### ● 静岡県藤枝市

藤枝市街道・文化課

〒426-8722 藤枝市岡出山1-11-1

Tel. 054-643-3036 鈴木裕美

<https://www.city.fujieda.shizuoka.jp/kosodate/oshirase/12510.html>

#### 藤枝市民会館開館50周年記念 東京混声合唱団藤枝特別公演

開館50周年を記念し、初めて藤枝で開催される東京混声合唱団の公演。音楽によるまちづくり「合唱のまち藤枝」をテーマに、平成29(2017)年度より実施している「子ども合唱アカデミー事業」の一環として開催。約4カ月間にわたり練習を重ねた子どもたちと東京混声合唱団との合同ステージでは、本市出身の詩人・加藤まさ作詞の『月の砂漠』の演奏を披露する。

[日程] 9月21日

[会場] 藤枝市民会館

#### ● 愛知県刈谷市

刈谷市美術館

〒448-0852 刈谷市住吉町4-5

Tel. 0566-23-1636 古池幸代

<https://www.city.kariya.lg.jp/museum/>

## ▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

### 久野真展—Metal Works—

石膏や鉄などの金属による絵画作品で知られ、名古屋を拠点に国際的に活躍した久野真(1921～98)の展覧会。愛知ゆかりの重要作家として同館が収蔵してきた作品と、初期から晩年までの代表作、遺族の協力のもとアトリエに遺された貴重な作品や資料を併せて紹介する。関連イベントとして久野の作品の魅力でもある素材や形の面白さに着目し、夏休みの子ども向けワークショップも開催。

[日程] 7月23日～9月1日

[会場] 刈谷市美術館

### 近畿

#### ●三重県津市

三重県立美術館

〒514-0007 津市大谷町11

Tel. 059-227-2100 原舞子

<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/index.shtm>

#### 中谷ミチコ その小さな宇宙に立つ人

次世代を担う美術家を発信する「Y<sup>2</sup> project」の第1弾として、レリーフのような彫刻作品で知られる中谷ミチコの過去最大規模の個展を開催。中谷が10代の頃に強く影響を受けた彫刻家・柳原義達(1910～2004)の作品を自らがセレクトし、自身の作品と同じ空間に展示するという新たな試みを行う。世代も表現方法も異なる両者の作品が交わることで出現する空間に注目。

[日程] 7月6日～9月29日

[会場] 三重県立美術館 柳原義達記念館

#### ●滋賀県米原市

滋賀県立文化産業交流会館

〒521-0016 米原市下多良2-137

Tel. 0749-52-5111 熊谷真希

<https://www.s-bunsan.jp/>

### 大阪コンサートプラス The 10 Piece ～英国式金管アンサンブルの響き～

公募で選ばれた企画をホールと県民の共同主催で行う「県民協働企画事業」のひとつとして、滋賀県出身の川北朋率いる大阪コンサートプラスの金管10重奏団によるコンサートを開催。日本では珍しい英国金管アンサンブルを、伝統的な演奏スタイルによって演奏する。また、楽器経験者を対象としたクリニックが行われ、コンサート内の合同演奏に参加することができる。

[日程] 9月14日

[会場] 滋賀県立文化産業交流会館



大阪コンサートプラス The 10 Piece

#### ●京都市

京都芸術センター

〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2

Tel. 075-213-1000 加藤雅俊

<https://www.kac.or.jp/>

#### 展覧会「二つの部屋、三つのケース」

多様な形の作品を発表し活躍する3組のアーティスト(関川航平、山中suplex、タカハシ 'タカカーン' セイジ)が、それぞれ10日間、同センターの校庭を挟んで北と南に位置する2つの部屋で展示を行う。展覧会という形式を取りつつ、つくり出されるのは、2つの部屋とそれらを繋ぐ廊下などで鑑賞者と共有される時間や場。日々訪れる鑑賞者の存在が大きく作品に作用し変化していく様子を3つのケースとして提示する。

[日程] 8月27日～9月29日

[会場] 京都芸術センター

#### ●大阪府河内長野市

河内長野市文化振興財団

〒586-0016 河内長野市西代町12-46

Tel. 0721-56-6100 相輪研二

<https://lovelyhall.com/>

#### 奥河内音絵巻2019 vol.5

#### 『水とじいちゃん～流れるように生きてきた～』

音楽家のサキタハヂメが芸術監督を務める、ミュージカルでもコンサートでも演劇でもない不思議で美しい舞台「奥河内音絵巻」の第5弾。今回は絵本作家・いぬんこと、光の切り絵作家・酒井敦美が共演。いぬんこが描いた4人の“じいちゃん”の日常とともに、奥河内の水の風景を光と音楽を用いて表現する。地元市民で構成される団体の演奏のほか、市内の蟹井神社祇園囃子保存会も出演する。

[日程] 9月15日

[会場] ラブリーホール

#### ●神戸市

横尾忠則現代美術館

〒657-0837 神戸市灘区原田通3-8-30

Tel. 078-855-5607 山本淳夫

<http://www.ytmoca.jp/>

#### 横尾忠則 自我自損展

横尾忠則自身がゲストキュレーターを務め、自らの個展をキュレーションするという、公立美術館では初のユニークな試み。横尾自らが出品作品を選定し、展示プランを考案する。タイトルの「自我自損」はエゴに固執すると損をするという意味で、常に自らの作品に批評と否定をし続けることで自分を見つめてきた横尾が考案した造語。

[日程] 9月14日～12月22日

[会場] 兵庫県立横尾忠則現代美術館

### 中国・四国

#### ●広島県呉市

呉市立美術館

〒737-0028 呉市幸町入船山公園内

Tel. 0823-25-2007 宮本真希子

<http://www.kure-bi.jp/>

#### 「日本画の魅力」～花鳥画・山水画・物語絵などに見る近代日本画の伝統と革新～

近代以降、伝統に立脚しつつも西洋の画法や美術思潮を取り入れ、独自の表現を追求し、時代に即して変容と発展を遂げた日本画。水谷愛子など郷土ゆかりの作家をはじめとする館蔵品40点余りにより、多彩に展開された近代日本画の魅力を紹介する。期間中、日本画体験ワークショップ(9月16日)や館長講座「直伝、日本画の楽しみ方」(9月1日)も開催。

[日程] 8月31日～9月29日

[会場] 呉市立美術館



森田曠平《善知鳥》(右隻、1980年)

#### ●山口県長門市

香月泰男美術館

〒759-3802 長門市三隅中226

Tel. 0837-43-2500 丸尾いと

<https://www.city.nagato.yamaguchi.jp/kazukiyasuo/>

#### 香月動物園

画家・香月泰男の描いた生きもののたちの企画展。夏休み時期の子どもたちも楽しめるよう動物園をイメージし、香月が自宅で飼っていた鳩や犬などをモチーフにした72点の作品を紹介。同じ生きものでも、描き方や絵の具の選択による印象の違いなど、画家がどのような想いで表現したかを感じ取ることができる。

[日程]6月6日～9月23日

[会場]香月泰男美術館



香月泰男《山羊》(1955年)

●香川県高松市

香川県立ミュージアム

〒760-0030 高松市玉藻町5-5

Tel. 087-822-0247 田井静明

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/>

祭礼百態—香川・瀬戸内の「風流(ふりゅう)」

香川・瀬戸内地域の多種多様な祭礼について、布団太鼓などの屋台祭礼や、獅子舞、奴を中心に紹介し、その歴史をたどる。また、祭礼の見物人を喜ばせる趣向である「風流(ふりゅう)」について、その伝播や受容を絵画・歴史・民俗資料から紐解く。地元住民の協力を得ながら、同館過去最大規模となる県内外約100地域から出陳を受けて開催される。

[日程]8月3日～9月7日

[会場]香川県立ミュージアム



虎頭の舞(香川県指定無形民俗文化財・東かがわ市)

九州・沖縄

●北九州市

北九州芸術劇場

〒803-0812 北九州市小倉北区室町1-1-11

Tel. 093-562-2620 田中ありさ

<http://q-geki.jp/>

北九州芸術劇場ダンスクリエーション「ギミックス」

若手振付家・ダンサーの育成企画として、2017年に九州出身の振付家・井手茂太がオーディション選抜メンバーと北九州で滞在制作した『ギミック』が、新メンバーでリニューアル版『ギミックス』として上演される。ダンサーたちの豊かな身体、音楽、照明、舞台機構など様々なギミック＝仕掛けをユーモアとともに散りばめたダンス作品。北九州のほか、宮崎と熊本でも上演。

[日程]9月14日、15日

[会場]北九州芸術劇場

●長崎県大村市

大村市文化・スポーツ振興財団

〒856-0836 大村市幸町25-33

Tel. 0957-20-7200 坂口裕司

<http://www.seahat.jp/>

オーケストラで聴く「映画&ミュージカル」の名曲たち

映画・ミュージカルの不朽の名曲や、近年の人気作品の楽曲を取り上げた公演。シーハットおおむらを拠点に活動している長崎OMURA室内合奏団と、同財団で手がけるオリジナルミュージカルの劇団「夢桜」の、地元アーティストによる演奏を楽しむことができる。さらに大村市出身で、夢桜のOBでもあるミュージカル俳優の若松溪太もソリストとして出演する。

[日程]9月21日

[会場]シーハットおおむら・さくらホール

●熊本市

熊本県芸術文化祭実行委員会

〒862-0971 熊本市中央区大江2-7-1

Tel. 096-363-2235 宮家郁子

<http://www.kengeki.or.jp/>

第61回熊本県芸術文化祭オープニングステージ『大地のうた』

毎年芸術文化祭のオープニングを飾る企画として制作している公演。今年は総合演出に尺八

演奏家の藤原道山を迎え、民謡をテーマとした演奏会を実施。『五木の子守唄』や『牛深ハイヤ』など、隠れた民謡大国である熊本県の民謡をはじめ、熊本から全国へ広がった民謡や、現代風にアレンジされた民謡を紹介することで民謡の魅力を余すところなく伝える。それぞれの地域で歌い継がれている民謡が、次世代へ継承するきっかけとなることを目指す。

[日程]9月1日

[会場]熊本県立劇場

●大分県大分市

大分県立美術館

〒870-0036 大分市寿町2-1

Tel. 097-533-4500 宗像晋作

<https://www.opam.jp/>

江戸浮世絵の黄金時代 The Ukiyo-e 歌川派—豊春から国芳、広重まで

浮世絵史上、最大の画派として栄えた「歌川派」。同派の開祖・豊春に大きく注目した展覧会。豊春の豊後臼杵(現大分県臼杵市)出身説について検証するとともに、臼杵市の文化、観光分野について知ることができる関連事業も展開。また、歌川派の代表的絵師のみならず、同派のライバル絵師たちも紹介し、さまざまなジャンルの浮世絵を堪能できる。

[日程]9月20日～10月27日

[会場]大分県立美術館

●宮崎県高鍋町

高鍋町美術館

〒884-0003 児湯郡高鍋町南

高鍋6916-1

Tel. 0983-23-8887 青井美保

<http://www.town.takanabe.lg.jp/museum/>

開館20周年記念企画

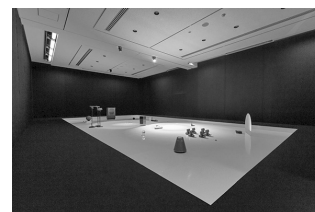
「パラレル・トラベル」

開館20周年を契機に開催する同館初となる現代アートの展

覧会。ゲストキュレーターに芸術祭など各地で活躍する石川吉典氏を起用し、外部から新たな視点を取り入れることで、地域内外からの創客を目指す。作家の山城大督が高鍋に複数回通い、「共感覚」をテーマとした上演型新作インスタレーション《Synesthesia Garden》を発表。作品を見ることでさまざまな感覚を呼び起こす体験型の作品となっている。

[日程]7月20日～9月1日

[会場]高鍋町美術館



《Synesthesia Garden》 撮影:青地大輔

特集 アートプロジェクト

夏フェス以降も全国各地で開催されている多彩なアートプロジェクトを紹介し。

※開催地の北から順に掲載。

☑は会場、☑は問い合わせ先です。

(👉)は地域創造助成事業

●仙台市 9月24日～10月6日 第8回せんだい21アンデパンダン展2019

自立を意味し無審査で行う美術展。震災の翌年から始まり、誰もが自由に参加できる開かれた場を設け、震災後の新しい価値観を目撃する試み。今回も昨年を上回る応募があり、平面や立体作品、映像作品、パフォーマンスなど、小学生からお年寄りまで幅広い世代による作品約230点が仙台市内のギャラリーや定禅寺通り、野外会場で展示・発表される。



## ▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

☒ 中本誠司現代美術館ほか市内各所 ☒ せんだい21アンデパンダン展実行委員会  
Tel. 022-398-6413

● 秋田県秋田市  
8月31日、9月1日

### アジアトライAKITA 千秋芸術祭2019

舞踏の先駆者として世界的に知られる土方巽の故郷、秋田市を舞踏芸術の世界的な拠点とするために、世界および日本各地の舞踏家や民俗芸能の踊り手やミュージシャンを招聘し開催。3回目となる今回は、日本国内のほかカナダや韓国など海外から36組約100名のアーティストが出演。会場では土方が好んで食べた羽後町産の西瓜「夢こまち」の無料配布も予定している。

☒ 秋田市千秋公園本丸  
☒ アジアトライAKITA 千秋芸術祭実行委員会(阿部)  
Tel. 080-6865-2376

● 山形県大蔵村  
7月26日～9月16日  
第13回灯籠絵展示会  
「ひじおりの灯」

肘折温泉開湯1200年を迎えた2007年にスタートしたアートプロジェクト。毎年雪解けの季節に、山形にゆかりのある若手作家らが温泉街での取材合宿を経て、湯治場に息づくさまざまな情景を描き出し、八角の灯籠に仕立てている。この夏も9名の作家による新作を含む灯籠絵が、肩を寄せ合うように並ぶ旅館や商店の軒先、湯治場を



昨年度の様子

幻想的に彩る。  
☒ 肘折温泉  
☒ ひじおりの灯実行委員会  
Tel. 090-2076-5698

● 群馬県高崎市  
9月22日～10月14日

### 高崎芸術劇場オープン記念 第30回高崎音楽祭

「音楽のある街・高崎」のシンボリックイベントとして1990年に始まった伝統の音楽祭。30回目の節目となる今回は、9月20日に開館する高崎芸術劇場のオープン記念として、全16公演を同劇場で開催。オープニングでは歌手の加藤登紀子と森山良子が初共演し群馬交響楽団と演奏するほか、渡辺貞夫や美輪明宏、ゴスペラーズ、また初招聘となる世界的ピアニストのマルタ・アルゲリッチなど、さまざまなジャンルのビッグアーティストが出演。オリジナリティーあふれるステージが繰り広げられる。

☒ 高崎芸術劇場  
☒ 高崎音楽祭事務局  
Tel. 027-322-9195

● 東京都豊島区  
9月21日～11月23日  
東京芸術祭2019

東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界と繋がることを目指して、2016年にスタートした都市型総合芸術祭。2018年より、宮城聡総合ディレクターと参加事業のディレクターとの協働体制で展開している。今年度は、「出会う。変わる。世界。」をテーマに、新たな取り組みであるコンペティションを加え、国内外の多彩な舞台芸術作品を上演する。  
☒ 東京芸術劇場、あうるすぽっと、東京建物 Brillia HALL (豊島区立芸術文化劇場)ほか東京・池袋エリア  
☒ 東京芸術祭実行委員会  
Tel. 050-1746-0996

● 東京都町田市 9月23日  
YATOの縁日2019

古くから「谷戸」(丘陵地が侵食されて形成された谷状の地形、そしてその土地に根ざす農業や生態系を指す言葉)と呼ばれる町田市忠生地域で500年のcommonを考えるプロジェクト「YATO」の一環として開かれる、地域の人々が集う縁日。築田寺に伝わる大蛇の伝説を基に、作家の川村亘平斎が影絵作品を制作し、小学生と共に人形をつくり上演する。会場には竹細工体験や子どもたちによる遊び屋台が並ぶほか、地域を伝え継ぐ「かわら版」を配布する予定。

☒ 築田寺  
☒ YATOプロジェクト事務局(社会福祉法人東香会)  
Tel. 042-794-6675



YATOの縁日2018の様子

● 横浜市  
9月15日～11月15日  
横浜音楽祭2019

3年に一度、クラシックやジャズ、ポップス、日本伝統音楽などオールジャンルの音楽フェスティバル。世代やジェンダー、障がいの有無などにかかわらず、あらゆる人が楽しめる300を超えるプログラムが横浜市内全域で実施される。3回目の今年は「日英交流年 UK in JAPAN 2019-20」参加企画として、英国近衛軍楽隊の招聘や英国ロイヤル・オペラを共催事業として迎えるほか、「街に広がる音プロジェクト」と題して、期間中の週末を中心に商業施設や公園などのオープンスペース

で無料ライブが行われる。  
☒ 横浜市内各所 ☒ 横浜アーツフェスティバル実行委員会  
Tel. 045-663-1365



神奈川フィルハーモニー管弦楽団による無料コンサート ©oono ryusuke

● 新潟県佐渡市  
8月13日～10月6日(予定)  
さどの島銀河芸術祭プロジェクト2019

佐渡島の自然や歴史、民話、伝承を掘り起こし、土地の魅力を再発見していく「さどの島銀河芸術祭」。2021年の芸術祭本開催を見据え、島内各地で作品展示やアートイベントを行うプロジェクトを展開。9月には、既存の観光ルートでは訪れない場所や祭りを芸術的視点・民俗学的視点で巡るツアー「もうひとつの佐渡観光」を実施。来場者に佐渡についてより深く知ってもらうことを目的としており、同ツアー後にはシンポジウムも開催。

☒ 両津港周辺ほか佐渡市内各所 ☒ さどの島銀河芸術祭実行委員会/アース・セレブレーション実行委員会  
Tel. 050-5305-5135



さどの島銀河芸術祭2018の様子  
photo: Shunsuke Shii

● 富山県高岡市  
9月19日～23日  
工芸都市高岡の秋。2019  
ものづくりのまち高岡に約300

名の作家が一堂に会し、約100会場、約3,000点の作品が展示されるクラフトに関する統合イベント。お気に入りの作品を購入できる「工芸都市高岡クラフト展」、ワークショップなどのイベントが同時多発的に行われる「高岡クラフト市場街」、千本格子と石畳の景観が残る金屋町で工芸品の展示や茶会が行われる「ミラレ金屋町」の3つのイベントが開催される。

☉高岡市市街地一帯  
 ☉高岡市文化創造課  
 Tel. 0766-20-1255



高岡クラフト市場街

●長野県大町市  
 8月24日～9月1日

**信濃の国 原始感覚美術祭2019**  
 —水のうぶすな

都市生活で失われてしまった“原始感覚”を取り戻そうと企画された美術祭。10周年を迎える今年には国内外37組のアーティストが参加。現地で滞在制作を行い、その地で暮らす人と出会うことで新たな表現や祭りを生み出していくことを目指している。開催初日の「火おこしの儀」から1週間火を灯し続け、「宵祭」「本祭」ではアーティストが作品やダンス、野焼き、原始感覚獅子舞などで盛大に祝祭を行う。

☉木崎湖畔、信濃公堂、西丸震哉記念館ほか ☉NPO法人原始感覚舎 Tel. 0261-22-1436

●長野県御代田町  
 9月14日～11月10日

**浅間国際フォトフェスティバル**  
**2019 PHOTO MIYOTA**

旧メルシャン軽井沢美術館跡地にアートフォトを専門とした「御代田写真美術館」の開館を視野に入れて実施するフェスティバル。メイン会場である御代田町のほか、軽井沢町、長野原町と浅間山麓の広域にわたるエリアで、国内外40～50名のアーティストによる作品を、大型写真やインスタレーション、最新のテクノロジーを取り入れるなど多様な展示方法で紹介する。

☉御代田写真美術館予定地(旧メルシャン軽井沢美術館)周辺  
 ☉浅間国際フォトフェスティバル2019 PHOTO MIYOTA実行委員会 info@asamaphotofes.jp



サナ・レイト「Morphologies」  
 © Sanna Lehto

●名古屋市  
 7月27日～10月14日(金土日祝のみ)

**ART FARMing**  
 (アート・ファームing)

名古屋市の中心部に位置する長者町に集まるアーティストやクリエイターの有志で構成される「長者町スクール・オブ・アーツ」による、まちなかを農園に見立て、まちとアートを育むプロジェクト。2019年1月から約1年間にわたって行われ、7月～10月はあいちトリエンナーレ2019連携企画事業として、24名11組のアーティストやデザイナーが都市と農業をキーワードにした作品の展示やワークショップを行う展覧会を開催。

☉綿寛ビルほか

☉長者町スクール・オブ・アーツ  
 chojamachi.artfarming@gmail.com

●神戸市  
 9月14日～11月10日

**TRANS-**

かつては重工長大型産業で栄え、その後阪神・淡路大震災で甚大な被害を受けた神戸市街地西部の沿岸地域3カ所が会場となるアート・プロジェクト。参加作家を2名に絞り、町そのものを素材とした作品を発表する。ドイツ出身で世界の第一線で活躍するグレゴール・シュナイダーは旧兵庫県立健康生活科学研究所を作品化した《消えた現実》など12のインスタレーションを手がける。神戸生まれの現代美術家で近年は演劇にも力をいれているやなぎみわは、2016年に初演したステージトレーラーによる野外劇『日輪の翼』(原案：中上健次)を神戸市中央卸売市場本場内で上演する。

☉新開地地区、兵庫港地区、新長田地区 ☉TRANS-KOBE実行委員会事務局  
 Tel. 078-515-6034

●兵庫県豊岡市  
 9月6日～8日

**第0回豊岡演劇祭**

2020年に新たに本格開催を予定する「豊岡演劇祭」のプレ企画。フェスティバルディレクターを務める平田オリザの代表作『東京ノート』のインターナショナルバージョン、劇団柿喰う客の新作『御披楽喜』(おひらき)のプレミア公演(いずれも世界初演)に加え、若手有望劇団のスタジオ公演も予定している。

☉城崎国際アートセンター、出石永楽館 ☉豊岡演劇祭実行委員会事務局(豊岡市環境経済部大交流課内)  
 Tel. 0796-21-9081

●長崎県対馬市  
 8月31日～9月29日

**対馬アートファンタジア2019**

「国境の地」として海を越えて諸外国とも文化の往来があった対馬に、世界から芸術家を招き、地域住民との交流を図ることを目的に2011年から開催。今年も、日本や韓国、ドイツなどから26名のアーティストが参加し、島内各所に彫刻や絵画、写真、インスタレーションを展示する。作品の制作や展示を地域住民がサポートするなど、地域を巻き込んだ取り組みが展開されている。

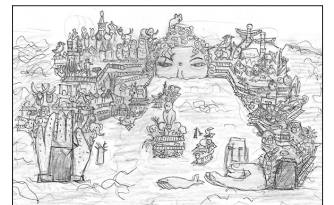
☉対馬・アートセンターほか対馬市厳原町内各所 ☉対馬アートファンタジア実行委員会(米田) Tel. 090-8913-7402

●大分県別府市  
 9月21日～11月10日

**関口光太郎 in BEPPU**

国際的に活躍するアーティストを招聘し、地域性を活かした芸術の創作を展開する個展形式のアートプロジェクト。4回目となる今回は、新聞紙とガムテープを使ったアート作品を手がける現代芸術家の関口光太郎を招聘。会期前から実施するワークショップで市民が制作した作品をインスタレーションの一部に取り込み、過去最大規模の作品を発表する。

☉トキハ別府店  
 ☉混浴温泉世界実行委員会(NPO法人BEPPU PROJECT内)  
 Tel. 0977-22-3560



関口光太郎によるブランドローイング「混浴へ参加するよう世界を導く自由な薬師如来」(仮) 提供：混浴温泉世界実行委員会

## ▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

### アーツセンター情報

#### ●群馬県邑楽町

##### 邑楽町中央公民館「邑の森ホール」

〒370-0603 邑楽郡邑楽町大字中野2569-1

Tel. 0267-88-1177

<https://www.ora-ph.jp/>

◎2018年9月1日オープン



老朽化していた邑楽町公民館を役場庁舎や図書館、保健センター等がある行政機能の集約区域に移転、また芸術文化を振興するためのホール機能を新たに加えて開館。

町民の投票によって名付けられた「邑の森ホール」は、フライタワーのないシューボックスタイプながら、客席上手側の壁が可動式で中庭との連続した利用が可能となるほか、最大720mm上下する迫りは客席やオケピットにも使用できるなど、多様な演目や使用形態に合わせることができる多目的ホール。また舞台、楽屋、客席が同じ高さに揃えてあるので車いすでも移動が可能のほか、難聴者支援システムを全座席に配置し、多様な利用者に配慮している。

これまでホールがなかった町に誕生した町民待望の施設として、文化を通じたまちづくりの拠点としての期待も高まっている。[オープニング事業]オープニングイベント「おうら虹色カーニバル」、おうら寄席(立川談四楼)ほか

[施設概要] 邑の森ホール(最大485席)、音楽室(26.1m<sup>2</sup>)、スタジオ(10.3m<sup>2</sup>)、創作テラス(101.6m<sup>2</sup>)、多目的室ほか

[設置者] 邑楽町

[管理・運営者] 邑楽町

[設計者] 株式会社日経建

#### ●兵庫県川西市

##### キセラ川西プラザ

〒666-0017 川西市火打1-12-16

Tel. 072-757-1920

<http://kisela-kp.jp>

◎2018年9月25日オープン



川西市が独自のPFI事業で整備を進める中心市街地の「キセラ川西」地区に、老朽化した公共施設の複合化に加え、文化施設と地域の福祉機能を集約した低炭素複合施設が誕生。世代を超えた人々が出会う場と位置付け、市民と行政が現状の課題を共有しながら、地域文化の創出に取り組む。

文化棟の「キセラホール」は、文化会館に代わる施設として、プロセニウム形式で造られた市内最大のホール。コンサートや演劇などの芸術文化公演、講演会、市民の発表会など多目的に対応。文化棟と福祉棟を繋ぐ2階のブリッジには、地上を行き交う人々の流れを確保するほか、自然の風や光を取り入れる狙いがある。

今後は1周年記念事業のほか、多様な自主公演や「キセラ川西」地区全体で連携した文化事業の継続的な実施を目指す。

[オープニング事業] 佐渡裕指揮コンサート

[施設概要] キセラホール(1,000席)、大会議室、多目的スタジオA・B、川西公民館、こども・若者ステーションほか

[設置者] 川西市

[管理・運営者] 川西市低炭素型複合施設PFI株式会社

[設計者] 株式会社大建設計

#### ●大分県竹田市

##### 竹田市総合文化ホール グランツけた

〒878-0024 竹田市大字玉来1-1

Tel. 0974-63-4837

<http://www.taketa-city.com/glanz/>

◎2018年10月7日オープン



平成24年の記録的豪雨の被害により使用不能となった竹田文化会館の後継施設として設置。設計にあたっては、市民フォーラムや検討部会などを数多く開催し、ホールの規模、使用用途等に市民の意見が反映され、開館後もボランティアで活動する「市民スタッフ」が、イベントの企画やフロント係など施設運営に携わっている。

竹田市ゆかりの作曲家・瀧廉太郎にちなみ命名された「廉太郎ホール」は、天井の高さや木材の使用により、音の響きにこだわったつくりとなっている。また、大分県産材がふんだんに使用された木のぬくもりを感じられるギャラリー空間などにより、憩いと交流の場として開かれた施設をイメージさせる。

自主事業として瀧廉太郎記念全日本高等学校声楽コンクールほか多くの事業を開催している。

[オープニング事業] 〈竹田ルネサンス2018〉開館記念式典、開館記念コンサートほか

[施設概要] 大ホール「廉太郎ホール」(713席)、小ホール「キナール」(最大275人)、楽屋、和室、練習室、調理室、創作広間

[設置・管理・運営者] 竹田市

[設計者] 有限会社香山壽夫建築研究所

#### ●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

#### ●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

#### ●情報提供先

地域創造レター担当  
Fax. 03-5573-4060  
Tel. 03-5573-4183  
[letter@jafra.or.jp](mailto:letter@jafra.or.jp)

## ▼—今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

福島県喜多方市

### 2019喜多方発21世紀シアター



「SUPER GARAGORI」で勢揃いした出演者と市民ボランティア

● 2019喜多方発21世紀シアター  
[主催]喜多方発21世紀シアター実行委員会  
[会期]2019年8月1日～5日  
[会場]喜多方プラザ文化センター全館、FMきたかた、大和川酒造北方風土館、公民館、幼稚園ほか  
※参加団体のプロフィールはHP参照。  
<http://21st.kitakataplaza.jp/cast/>  
※8月1日には全国5地域の劇団風の子が勢揃い。8月3日には20周年記念シンポジウム「21世紀の地域文化の展望Ⅱ」開催。

● 喜多方プラザ文化センター  
1980年代に自治省(現・総務省)が掲げた田園都市中核施設整備事業の補助を受け、83年に開館。開館当時は、大ホール(1,176席)、小ホール(400席)、練習室、研修室などを有する施設を、喜多方地方広域市町村圏組合(喜多方市など会津北部7市町村)が管理運営。(現在は、大規模改修により大ホール999席、小ホール375席。市町村合併により3市町村による組合が管理運営)。開館当初から市民ボランティアによる舞台研究会「うらかた」が技術スタッフとして支え、自主文化推進協議会による自主事業、事業財源支援のための「喜多方プラザを支援する会」など、市民参加型ホール運営のハイオニア。2000年に「喜多方発21世紀シアター」を立ち上げ、毎年夏に開催。03年から規模を拡大し、まちなかの蔵なども会場とした子どものための総合芸術祭として取り組み、毎回延べ7,000～9,000人を集客。

\*1 子ども文庫の活動をしている多田徹を中心とする若者たちが1950年に結成。全国各地の幼稚園や保育園、学校、おやこ劇場・子ども劇場などで活動。80年代、全国公演班とは別に、それぞれの地方に定住し、地域の子どもたちに密着した活動をめざした「地域劇団風の子」が誕生。風の子東北もその一つ。

\*2 「がらごり」は家来神楽(からいかみり)の会津地方のなまりで、現代ではコトが終わった後の慰勞会の意味として使われている。

1980年代に開館した地域の老舗公立ホールの特徴のひとつが市民による裏方ボランティアの存在だ。たんば田園交響ホールと並び、名を馳せていたのが喜多方プラザ文化センターで、昨年開館35周年を迎えた。そのプラザが2000年から新たに取り組んできたのが、まちなかも会場にした子どものための芸術祭「喜多方発21世紀シアター」である。記念となる20回目が8月1日から5日までプラザをメイン会場に市内25カ所で開催され、全国から音楽、人形劇、大道芸、芝居、落語、マイムなど85団体が参加。延べ384人の市民ボランティアが支え、124公演が繰り広げられた。

この芸術祭は、喜多方に拠点を構えた劇団風の子東北(\*1)を主宰する澤田修さんが地元の子どもたちのためにと提案したのが始まり。2003年から規模を拡大し、児童劇団などのショーケース的な芸術祭として東北エリアのおやこ劇場関係者も多く訪れるようになった。

4日、5日と幾つかのパフォーマンスを回った。プラザの会議室では、劇団なんじゃもんじゃによる『ベッカニコおに』が上演されていた。暖簾のように出入り可能な大きな布絵で舞台三方を仕切り、2人の役者がお面、人形を巧みに使って8役をこなす。美しい照明で動く絵本のような片手使いの人形劇『ハリネズミと雪の花』を披露したひばぼたあむ、1790年創業の老舗酒造所・大和川酒蔵の昭和蔵で電子マリimbaやループ・サンプリングも駆使してマリimbaの即興演奏をした松本律子、20周年の洒落で結成した芸達者な芸術祭の常連3人(シモシュ、岡田健太郎、長田ひとし)によるオリジナル人形歌芝居『ウラシマタロウ伝説』など、想定以上の多彩さや工夫に驚いた。

出演団体は公募で、出演料は何公演でも1人2万円という条件にもかかわらず10年以上通っている常連がほとんど。黄色いTシャツを着た小中高生ボランティアが客の呼び込みや公演の前説に主体的に関わり、親子で参加しているボランティアも多く、その様子を退職したホール職員や第一世代のボランティアが裏で

支え、人間関係のエピソードがいくらかでも出てくるという、まるで親戚の集まりのようだった。

その象徴が、最終日に行われた20周年のお祝い祭り「SUPER GARAGORI」(\*2)だ。この会は次代を担うボランティアが中心となって企画。出演者や観客など200人近い人が集まる中、「5歳の頃から親に連れられて芸術祭に通い、アイドルだった男の子が高校生になって次期実行委員長を狙う!」というまるで実話のような寸劇を披露。出演した創造団体による出し物や、来場者みんなに祝福された実行委員長の引退式が行われるなど、これまでに見たこともないフィナーレだった。

澤田さんは、「お金にはならないけれど子どもたちを喜ばせたいという気持ちだけでここに集まってくる。交流する機会がない創造団体にとっても、こういう場が必要だった」と振り返る。喜多方子ども劇場出身で実行委員会事務局を担ってきた篠田直子さんは、「東日本大震災の時は、創造団体の人たちが『手弁だけでも行くから、喜多方から元気を発信しよう』と開催を躊躇する私たちの背中を押してくれた。子どもの頃からプラザに来ていた地元の若者が職員として帰ってきたので、きちんとバトンタッチし、支える側に回るために、私も今回で引退する」と、世代交代に意欲を見せていた。

芸術祭期間中には、遠藤忠一・喜多方市長や赤坂憲雄・福島県立博物館館長などを招いたシンポジウムも開催された。赤坂館長が、「我々の社会は、子どものことを考えていけば間違っていない。いかに継続させていくかが問われている」と話したのに対し、遠藤市長は、「当市の文化創造都市構想の柱に21世紀シアターを据えていきたい」と受け止めていた。

80年代に全国の先頭を切り、さまざまな知恵で運営されてきた老舗公立ホールは、市町村合併、指定管理者制度、人口減少と財政難、施設の老朽化、職員の世代交代と幾つもの変化をかいくぐってきた。20年前に芸術祭を立ち上げ、人間関係という宝を育ててきたプラザが新世代によってどのようなホールになっていくのか、本当に興味深いと思った。(田中健夫)